

經典餘師

詩經

七

11

1029

35

詩經卷之七

○生民之什三之三

生民八章

周の代のひうけりもその
徳先祖后稷とらん君と

所以とらん
一述こころなり

厥初生民時維姜嫄生民如何克禋

克祀以弗無子履帝武敏歆攸介攸

止載震載夙載生載育時維后稷

の生一ゆんをく民く后稷を生たい
母后姜嫄后稷を生たい
母后姜嫄はトち子の無やまひ有けり
意と

生民之什三之三
生民八章

厥初民と生ず
時維姜嫄民と
生ずる如何克
禋克祀以て子
無と弗帝の武
敏と履歆て介
攸止る攸
載ら震載ら夙
載ら育時維后
稷

誕う之ふとあ臨あ巷う
 實ふ牛う羊う之ふ
 之ふとあ平あ林う之ふ實ふ
 平あ林うとあ伐あ之ふ

一、彌て誕一先生をせり。人々に安産して、
 心地はなう。女の蓄害なり。一々一の霊を、
 寧康。どうんやと。依て居然した。とく出
 生。一々一の達。一々の子。と。○誕眞之隘
 羊と云ふ。と生。一の易。した。と。

誕^{タマ}ノ實^ミノ匏^{ハウ}匏^{ハウ}
以^{ヨリ}テ口^{クチ}食^シノ就^ス
之^ノ荏^{ジン}菽^{シュ}と藟^{ライ}荏^{ジン}
菽^{シュ}旆^ヘ々^々う^う禾^カ
役^{セキ}穰^{セウ}々^々う^う麻^マ
麥^{マク}幪^{マウ}々^々う^う瓜^カ
瓠^{ハク}奉^{ホウ}々^々う^う

思ひ入る足跡を履て娘と不祥なりとていひし隘
さ巷は棄させぬ人走らるる牧ある所の牛羊を
さうりてその上は群あひひく之と字又平林の中
は棄實バ薪枝代りさうる人會てたをけられ

克岐克嶷以就口食藝之荏菹荏菹
旆旆木役綈綈麻麥幪幪瓜瓞嗶嗶

二三歳よりなりて匍匐してころもいそよその客良岐
疑ふ丈夫より六七歳よりより志し人口食等と

説嘉種と降
維秬維秠維
糜維芑之秬

[illegible]

是は敵之摩訶
 恒く是は是は
 以て歸て肇て
 祀

誕うまは我われ祀まつ如何いかん
或あるは吞くは或あるは掬く
或あるは歟や或あるは蹂ふ
之これと釋はなと叟そう々々
々々之これと烝むすと
浮う々々々々載のり
謀はか載のり惟ただ蕭しょうと
取とて脂あぶらと祭まつり牲けい
と取とて以もつて較くら

經典餘帀

詩經卷之二

三

印豆于盛豆于
登于其香始て
升上帝居歆と
胡と臭の賣と
時ちち后稷肇
て祀罪悔魚と
庶て以て今
于迄

敦^{あつ}ら^ら彼^か行^{ぎやう}葦^い
牛羊踐履^{せんりやく}する
と勿^{なほ}方^{はう}は苞^{ほう}方^{はう}
と體^{たい}維^い葉^{えつ}泥^{でい}々^々
と^さ威^い々^々と^ら兄^{けい}
弟^{てい}遠^{えん}と^と莫^{もく}臭^く
と爾^に或^{ある}は之^{これ}筵^{いん}
と肆^し或^{ある}は之^{これ}几^き
と授^{さづ}

筵と肆席と設
 几と授て緝御
 有或ハ獻或ハ
 酢爵と先單と
 奠醢醢以て薦
 或ハ燔或ハ炙
 嘉穀脾臠或ハ
 歌或ハ号と

敦弓既堅四
 錡既鈞矢と
 舍て既均賓
 と序と均賢
 と以て敦弓
 既句既四

錡と挾し四
 錡樹が如く賓
 と序する不
 侮と以て

曾孫維主酒醴維
 醕酌以大斗
 と以て以て
 黃耆と祈黃耆
 台背以て引以
 て翼壽考維祺
 以て景福と介

實よりたきことなりやと集會のいふ
 遠よりて具し再しつとて肆
 客の席より入け老人
 几案より授てこしなり
 肆筵設席

授几有緝御或獻或酢洗爵奠單醢
 醢以薦或燔或炙嘉穀脾臠或歌或

号
 筵席と設て御者
 の緝つけとて爵
 單と載奠又ハ洗
 洗とて

敦弓既堅四錡
 既鈞舍矢既均序賓以賢敦弓既句

既挾四錡四錡如樹序賓以不侮
 宴酒

のふし射礼と以て燕いと述る敦
 錡ハヤアなり弓堅く四の矢く鈞
 的射し望て矢と舍し均く中なり
 及て弓矢賢るもの座席の序あり
 句切て發し四の錡と手挾し十分
 如る負し故より人へ侮しすこと
 餐應とて酒と酌し論語君子の酌
 孟庖とて酒と酌し論語君子の酌
 ひ射礼とて酒と飲

曾孫維主酒醴維
 醕酌以大斗以祈黃耆黃耆台背以

引以翼壽考維祺以介景福
 先祖

ものこの日の主人
 後神よりて
 醕酒と以て親

既醉八章

既醉以酒既飽以德君子萬年介爾昭明

既醉八章

右父兄親屬酒宴之樂

既醉以酒既飽以德君子萬年介爾

景福

既醉主人之厚德心十分之飽

既醉以酒爾

既將君子萬年介爾昭明

上の心よ

昭明有

融高朗令終令終有俶介戶嘉告

昭明有終令終有俶介戶嘉告

其告維何邊豆靜嘉朋友

攸攝攝以威儀

右嘉告と人いひ維何ゆ

威儀孔時君子

有孝子孝子不匱永錫爾類

儀礼の威

爾の酒既多
爾の散既嘉
公尸燕飲福祿
來鳥と

鳥鷺在公
尸來燕來嘉
爾の酒既清
爾の散伊脯
尸燕飲福祿來
下と

鳥鷺在公
尸來燕來宗
既宗于燕
福祿の降攸公

尸燕飲福祿來
崇と

鳥鷺在公
尸來燕來
旨酒欣欣
燔炙芬芬
公尸燕飲
後艱有無

假樂四章
假樂の君子顯
顯令德民
宜于人
祿于天
右之命
天

鷺在沙台來燕來宜爾酒既多爾
散既嘉公尸燕飲福祿來鳥

鳥鷺在清台來燕來慶爾
酒既清爾散伊脯公尸燕飲福祿來

下
清さめなり散の麋肉を
肉を下し福祿天

鳥鷺在清台
來燕來宗既燕于宗福祿攸降公尸

燕飲福祿來崇
崇と

鳥鷺在豐台來止惠惠旨酒欣欣
燔炙芬芬公尸燕飲無有後艱

の左右ありて門のたれぬとて人々も惠の歌酒も
前旅なり人の心なり芬芬の燔炙のうめり

假樂四章

假樂君子顯顯令德宜民宜人受祿
于天保右命之自天申之

の徳の光世に顯現する人々、國家の民人と治た
る人々、宜く福祿天に受る人々、天自らその

自之と申

千祿百福子孫

千億穆皇

宣王

舊章

威儀抑抑德音

怨無怨無羣匹

率由羣匹

受福無疆

方之綱

之綱之紀燕及

朋友百辟卿士

○千祿百福子孫

億穆穆皇皇君宜王不愆不忘率

由舊章

威儀抑抑德音

秩秩無怨無惡率由羣匹受福無疆

四方之綱

之綱之紀燕及朋友百辟卿士媚

于天子不解于位民之攸攸

公劉六章

萬公劉匪居匪康迺場迺疆迺積迺

倉迺裏饌糧于橐于囊思輯用光弓

矢斯張千戈戚揚爰方啓行

經典餘市

寺一經卷之七

天子于嬪嬪不民

之堅攸

公劉六章

萬公劉匪居匪康迺場迺疆迺積迺

倉迺裏饌糧于橐于囊思輯用光弓

矢斯張千戈戚揚爰方啓行

經典餘市

萬公劉于斯
原既既
宣而永
無陟
原在復降
之舟維
玉及瑤
瑤瑤容

萬公劉于斯
原既既
宣而永
無陟
原在復降
之舟維
玉及瑤
瑤瑤容
既順迺宣而無永嘆陟則在嶠復降
在原何以舟之維玉及瑤瑤瑤容乃

萬公劉彼百泉
並彼溥原
瞻迺南
岡陟乃
京觀京師之
野時于慶
慶時于
盧旅時于
言言時
于語語

萬公劉京于斯
依瞻濟
既登乃依
乃其曹

萬公劉彼百泉
並彼溥原
瞻迺南岡乃觀于京京
師之野于時慶慶于時盧旅于時言
言于時語語
萬公劉于京斯
依瞻瞻濟濟俾進俾几既登乃依乃

鄒公劉既（しやうこうりゅう）、
 既（しやう）長（ちやう）既（しやう）景（けい）、
 岡其陰陽（おのゝかげんやう）と相其（さう）、
 流泉（りゅうせん）と觀其軍（くわん）、
 三軍其闕原（さんぐん）と、
 度（てん）て田（でん）と徹（てつ）、
 て糧（りやう）と爲其夕（たふ）、
 陽（やう）と度（てん）て幽居（ゆうこ）、
 允（いん）荒（かう）なり。

造其曹執禾于牢酌之用飽食之飲

倉々々々威儀濟々々々て恭々々々堂几造々々々の牢の中
 永と執々々々臣下々々酒宴々々もて々々々々々々を食
 約々々々々々酒々々々々々飽々々々用て飲食々々々々
 々々々々々々の明君々々々々々々人々々々宗々々君

萬公劉既溥既長既景迺

岡相其陰陽觀其流泉其軍一單度

其隰原徹田爲糧度其夕陽幽居元

荒
公劉土地を辟た
て景とて東西南北疆界等とた

邑居くわい陽の噴ふん氣流泉水土ど端と相觀て農作のうさく

燥原と度ちを征稅納藏と定るを依て田地の徴する法を設て家内養ふを糧とあてたる

ちよとろろ 猶又山の西へひろくわし辟ふと以て函
 の人居よろろ元々荒大のりさふひとぞなれり古へい百

里の國に車千乘人衆何ちぞくして數と出と
たり三軍に三軍の副下を統あり依て民百姓と

何ぞの辞に徹法といふ秘法十分の一と上納と
 ちう天下通徹て甲乙きうの心ちう夕陽と山

の西の夕陽の光を以てりふなり

○篤公劉子豳斯館涉

渭爲亂取厲取鍛止其廼理爰衆爰

有夾其皇澗
遡其過澗
止旅廼密芮

鞆之即
公劉（たけ）函（は）館（かん）さうきんまひるんゑん
川と横亂の舟をくわへて厲をくわへて

鋸と取^りと^り巧^く匠^{じやう}の工具^{こうぐ}を^あと^りと^り土地^{ちど}と^り理^り
基^きと^りと^り止^とと^り家^け居^いと^りと^りひ^ひけ^けと^り衆^{しゆ}の

爾の土宇取章
亦孔之享美
豈弟の君子爾
とて爾の性
と彌百神爾と
主の俾

て優游に休むの豈に弟より諸衆の君子にも忠
誠と盡はるて角の性命を強たのしきとせら
る神先代の王とてこの酋と令て遂むの
宇取章亦孔之厚矣豈弟君子俾爾
彌爾性百神爾主矣爾の仁徳礼法土宇に
施し章明をくべし
の民にたりや恩恵もく孔に厚しとる賢徳あ
る諸の君子より君王となせけりて万民

爾命と受と長
く美苾祿爾康
美豈弟の君子
爾とて爾の
性と彌純嘏爾
常々俾美

馮有翼有孝有德有以て引以て翼豈弟の君子四方則て為

て顯々如璋

忠孝の臣下よりあつて、豈弟の君子等、君王の佐
けより安て、再天命を受け、長く勲業を賜ひて國
家康寧あり、是と勉むるの祝福

○有馮有翼

有孝有德以引以翼ミツマカ豈第君子四方ミナタチ爲則サマ
各々臣下の徳とり人誠ニ爲しすべし臣の
う君のゆことを従ふこと翼いさむる臣の

う大徳もとまざるあり 孝行人とかんぜしむるあり
うとの人々いづれも前より 引合ふゆゑなり 眞て四が
の則となぐしきなり ○ 顚顚叩叩如圭如璋

望宣弟の君子
四方綱を為

鳳凰于飛
其羽亦集

王吉士多維君
子の使天子于

鳳凰于飛
其羽亦天

子の命庶人于
媚

鳳凰鳴矣
彼高岡于梧桐生也

君子之車既
庶且多君子之

逐歌

令聞令望宣弟君子四方為綱

鳳凰于飛
其羽亦集
王多吉士

維君子使媚于天子

鳳凰于飛
其羽亦傳于

天萬萬王多吉人維君子命媚于庶

人

鳳凰鳴矣于彼

高岡梧桐生矣于彼朝陽

維維喈喈

君子之車既

庶且多君子

之馬既閑且馳

詩不維以逐歌

賢人君子之車

詩經

民勞五章

民亦勞止

可此中國

無縱詭隨

以謹無良

式遏寇虐

無畏明柔

遠能邇以

定我王

開て功者多し... 民勞五章 歐王の時周の天下は平

民勞五章

民亦勞止 汔可小康 惠此中國 以綏 四方 無縱詭隨 以謹無良 式遏寇虐 無不畏明 柔遠能邇 以定我王

民亦勞止 汔可小康 惠此中國 以綏 四方 無縱詭隨 以謹無良 式遏寇虐 無不畏明 柔遠能邇 以定我王

此中國以為民 述無縱詭隨以謹 憺 為王休 民亦勞止 汔可小休 惠 此中國以為民 述無縱詭隨以謹 憺 為王休

京師以綏四國無縱詭隨以謹因極
 式遏寇虐無俾作慝敬慎威儀以近
 有德息も民の心を休息せしめたり京師も四方の国々を
 威儀國極と作事俾事と慝事敬慎事威儀事以近事
 近事以事有德事
 民亦勞止民も亦勞と止
 可此中國中國與惠
 隨以謹醜厲謹式遏寇虐無俾正敗戎
 雖小子而式弘大雖小子と雖ども或て弘大なり
 泄俾泄泄泄泄泄泄泄泄泄泄泄泄

民亦勞止

可小惕惠此中國俾民憂泄無縱詭
 隨以謹醜厲式遏寇虐無俾正敗戎
 雖小子而式弘大

我小子而雖ども或て弘大なり
 民亦勞止民も亦勞と止
 可此中國中國與惠
 有有無無詭詭隨隨
 式式謹謹醜醜厲厲式式遏遏寇寇虐虐
 正正及及王王欲欲玉玉女女是是用用大大諫諫
 以以大大諫諫

民亦勞止
 有殘無縱詭隨以謹繆繆式遏寇虐
 無俾正及王欲玉女是用大諫

板八章 前段の意

上帝板板下民卒瘁出話不然為猶

下民卒く瘡語
と出く然不猶
と為く遠
不聖と葬
管々々々宣と
實とセ不之と
猶と未遠と
是を用て大
諫と

天の方難然
憲々々々
然天の方
無辭之輯
民之治

之憚へん
之莫する
我事と異

我事と異
及同僚我爾
即て謀我
言維服以て
笑と為く
民言有芻蕘

天之方虐と
然く譴々々
無老夫灌々
り小子躑々

經典余而

不遠靡聖管管不實於實猶之未遠

是用大諫 天子政事と云々

天の方難然憲憲天
之方蹶無然泄泄辭之輯矣民之治
矣辭之憚矣民之莫矣

我雖異事及爾同
以為笑先民有言詢于芻蕘

灌灌小子躑躑匪我言耄爾用憂譴

天之方虐無然譴譴老夫

詩經卷之二

り我言の老を
るは匪爾憂を
用て誰と多將
は煇々たり救
藥と不可不

天の方為威儀卒
迷善人載
尸方殿屎則
之方殿屎則
莫喪亂蔑資
我敢葵喪
曾て我師
と惠と莫

多將煇煇不可救藥

天道の如く
老を功者の
忠を盡する
未熟の小子
我老を功
民を惠む世
の憂は以て
誰と多將
煇々たり
救と不可

天の方憐無為夸毗威儀卒迷善

人載尸民之方殿屎則莫我敢葵喪

亂蔑資曾莫惠我師

天の情を顧念
威儀作法卒
迷善人載尸
方殿屎則
莫我敢葵
喪亂蔑資
曾莫惠我
師

天之牖

民如堦如麓如璋如圭如取如攜攜

無曰益牖民孔易民之多辟衆自立

辟

民の善心と牖と德と化と其與と
璋の玉を合て圭とありと民の從と
易と民之邪辟多と民の心と牖と

价人維藩大師維垣大邦維屏大

宗維翰懷德維寧宗子維城無俾城

壞無獨斯畏

德价人天子の藩守
大師の高位
天

天^{てん}之^の怒^いと敬^{あやま}ん
で敢^{あや}て戲^{あそ}豫^よを
と無^な天^{てん}之^の渝^や
と敬^{あや}んで敢^{あや}て
馳^ち驅^くす^ると無^な
昊天^{こうてん}曰^いは明^{あき}う
なり爾^{なん}及^{およ}出^でて
王^{わう}昊天^{こうてん}曰^いは且^{かつ}
うかり爾^{なん}及^{およ}游^{ゆう}
衍^{えん}と

蕩八章

蕩々々々上帝
下民之辟疾威
ちる上帝其命
辟ひらく多おほく天てん炁
民じんと生せいる其命
謀まうふ匪ひ初はつ有不ふ
鮮せん靡克終有と

文王ぶんおうの曰いはく咨さし々々
 女をんな殷いん商しょう曾そうち是これ

經典餘師

怒。無敢戲豫。敬天之渝。無敢馳驅。昊天曰明。及爾出王。昊天曰旦。及爾游。

衍ス 實じつや上うへより上うへの天てんの怒いかりをねぐれ敬うやまつむべく豫よ
戲あそびをうろちあるやうにとよく天命てんめいの兪ゆ中ちゆうと

天の昭覽（モウワン）一々（モウワン）人（モウワン）と至（モウワン）て明且（モウワン）一々（モウワン）人能（モウワン）人の言（モウワン）
 行（モウワン）と知り一々（モウワン）人（モウワン）と再（モウワン）出（モウワン）て王（モウワン）とあれ（モウワン）天（モウワン）も又（モウワン）附（モウワン）
 てその出王（モウワン）一々（モウワン）人（モウワン）と再（モウワン）遊（モウワン）行（モウワン）むと然（モウワン）天（モウワン）も又（モウワン）その遊（モウワン）
 一々（モウワン）人（モウワン）と再（モウワン）暴（モウワン）逆（モウワン）と行（モウワン）む上天（モウワン）あれと
 一々（モウワン）人（モウワン）と罪（モウワン）をたゞ一々（モウワン）人（モウワン）と一々（モウワン）人（モウワン）と一々（モウワン）人（モウワン）と

蕩之什三之三

蕩八章

周の天下を
綱紀も絶て
て政道を

是麿王の事なり

蕩蕩上帝下民之辟疾威上帝其命

多辟天生烝民其命匪謨靡不有初

鮮克有終

上の帝の仁の徳のを以てして下の民の心

の辟^{ひら}とるべしに今の上帝^{かみかみ}權威^{かうゐん}を以て
 人を疾^はして罪^{つみ}をなせし其命令^{そのめいれい}邪辟^{よこしま}を以て
 天命^{てんめい}謀^{はか}ふ測^{はか}ち匪畏^{ひゐ}ふをなせしは初^{はつ}
 は致^{いた}しとらるも終^{はつ}を克^はくくるといふものの
 大率^{たいそつ}輕^{かろ}きこと
 ○文王曰咨咨女殷商

○文王曰咨咨女殷商

詩經卷之二

五

文王の曰咨々
女殷商天不
面する酒を以
てせ不義徒
ぐて式既を
の止を愆
明靡晦靡式
號式て呼晝
夜と作俾

文王の曰咨々
女殷商如蜩
の如く蟬の如く沸
の如く羹の如く沸
人尚大喪由て行

内中國于
哭れ覃て鬼方
及ぶ

文王の曰咨々
女殷商上帝時
舊と用不老成
人無と雖とも
尚典形有曾ら
是大命と聴と
莫以て傾く

文王の曰咨々

文王曰咨咨女殷商天不

酒爾以酒不義從式既愆爾止靡明

靡晦式號式呼俾晝作夜

爾既君之止を愆るを晝と夜と

滅と以て號呼くは晝と夜と

文王曰咨咨女殷商如蜩如蟬如沸

如羹小大近喪人尚乎由行内哭于

中國覃及鬼方

匪上帝不時殷不用舊雖無老成人

尚有典刑曾莫聽大命以傾

文王曰咨

文王曰咨

文王曰咨

文王曰咨

文王曰咨

文王曰咨

文王曰咨

有顛沛之揭枝葉
實先撥殷鑒不遠在夏后之世

抑十二章

抑々々威儀
維德之隅人亦
言有哲

咨女殷商人亦有言顛沛之揭枝葉
未有害害實先撥殷鑒不遠在夏后
之世
實也
不遠殷之世也
善鑒

抑十二章

抑抑威儀維德之隅人亦有言靡哲
抑抑威儀維德之隅人亦有言靡哲

愚人之愚亦
疾哲人之愚
亦維斯戾

競無維人四
方其之訓
覺之德行
四方之順
命之遠猶
告威儀之
慎維民之則

不思庶人之愚亦職維疾哲人之愚
亦維斯戾
誠之維人
○無

競維人四方其訓之有覺德行四國
順之訏謨定命遠猶辰告敬慎威儀
維民之則
德之行
命令之定
命今之定

其今于在政

敬慎て民の則

○其在于今興迷亂

于迷亂

于政顛覆厥德荒湛于酒女雖湛樂

顛覆厥德

從弗念厥緒愆敷求先王克共明刑

荒湛于酒

亂迷と興心と治の身酒色と政務と

從之

亂迷と興心と治の身酒色と政務と

弗克明刑

亂迷と興心と治の身酒色と政務と

肆皇天

○肆皇天

弗尚如彼流泉

弗尚如彼流泉無論胥以亡夙興夜

寐洒掃廷內

寐洒掃廷內維民之章脩爾車馬弓

矢戎兵

矢戎兵用戒戎作用邊蠻方

興夜寐

矢戎兵用戒戎作用邊蠻方

之章

矢戎兵用戒戎作用邊蠻方

弓矢戎兵

矢戎兵用戒戎作用邊蠻方

用戒戎作

矢戎兵用戒戎作用邊蠻方

邊蠻方

矢戎兵用戒戎作用邊蠻方

質爾人民

質爾人民謹爾侯度用戒不虞慎爾

出話敬爾

出話敬爾威儀無不柔嘉皇主之玷

尚可磨也

尚可磨也斯言之玷不可為也

之玷

尚可磨也斯言之玷不可為也

君より威儀作法を敬し民と爲す嘉
愛とく白き圭の宝なりとくく珞つん

誠マコト
畏オソレ

無易由言無曰苟矣シテハノミナリ

莫捫朕舌。言不可逝矣。無言不辱。無

德不報^ハ惠^ヒ于^ニ朋友^ニ庶^レ民^ニ小子^ニ子孫^ニ繩^ニ

繩萬民靡不承
誠易由言出何事
無

人々もあつたに言話をうらやま
 人々もあつたに言話をうらやま

善惡とも已に口より言出ば人も
其言に饒くいものなり徳を施さば
人も徳と報ふと常なり云れ我の朋

友從隨之國の庶民の如くすべし。惠を以て子孫繩々蒙る。

のくちす 万民承順
ちつり不^ふの 靡^みとして

○ 視爾友君子輯

柔爾顏不遐有愆ニ相在爾室ニ尚不懼ニ

思不可度ア恩矧可射ヤ思ニ
二賢人一

と視^みる^{こと}は輯^{しゅう}宗^{そう}の顔^{がん}色^{しき}やうい^{ようい}の^のま^まに^にあ^あら^らう^うと^と必^{かならず}す^す行^{あきら}心^めを^を正^{ただ}と^と以^{もつ}て^てし^して^て用^{もち}ふ^ふと^とな^ならん^{らん}ば^ば必^{かならず}す^す行^{あきら}心^めを^を

あつゝ還りしより、舟の室は座となりて相ひ御
りしより、さうりしより、尚、く屋漏人たる所なりと

顯と曰とらん
 天下の道
 神明照
 格

詩經卷之二

卷之四

爾の徳を為す
辟臧俾嘉俾淑
爾の止と慎ん
て儀于愆と不
借不賤を不則
為不と鮮我を
投す之を桃を以
てす之を報
ゆ李と以て
と彼童と而角
と虹
と實と小子

心と神明と論語と善柔と柔の字
の義なり神明の事朱子の説と見
るに惑ひて度則と忠孝の道學と
の事とあつて度則と忠孝の道學と
○辟爾為徳俾臧俾嘉淑慎爾
止不愆于儀不借不賤鮮不為則投
我以桃報之以李彼童而角實虹小
子
一、拔の君と徳と辟
一、拔の臧謀猶の嘉と爾淑君との止と
賊と事乃儀と愆と鮮と徳と以て人
施と人が徳と以て報と
以て投贈と又之と李と以てと報と

荏染たる柔木
言よ之が絲を
緇と温々
恭人維徳之基
其維哲人之
話言と告徳
順て之を行
ふ其維愚人
謂我と僭と
謂民各心有

於乎小子未知臧否
否と知と手の

荏染末言緇之絲温温恭人維徳之
基其維哲人告之話言順徳之行其
維愚人覆謂我僭民各有心
○荏
牛羊の童と角と求るに異なり
國の小子と虹と
○荏
荏染たる柔木
言よ之が絲を
緇と温々
恭人維徳之基
其維哲人之
話言と告徳
順て之を行
ふ其維愚人
謂我と僭と
謂民各心有
○於乎小子未知臧否匪手攜

之と携る事
匪言の之命
示面之命
耳と提借未
ぞと曰亦既
よ子と抱民
盈と靡誰
夙知而莫成
昊天孔昭
靡爾と視夢
夢と我心
慘と爾と誨
と導と

之言示之事匪面命之言提其耳借
曰未知亦既抱子民之靡盈誰夙知
而莫成
於乎小子乃愚不肖者乃小子
是非臧否と細と説と
弁知と事と示と手と携と又と面と
り之と命とのるぞ耳と提と知と未と
説と子と抱の大人とバヤと民の徳と長と
巴智と盈充とるぞ徳と長と
て莫徳の成就とるの理とるぞ知
昊天孔昭我生靡樂視爾夢夢我恣
慘慘誨爾導導聽我藐藐匪用為教

我と聽と藐々
為と匪覆て用
て虐と為借未
知と曰も亦
聿と既と耄と
於乎小子爾と
舊と告と止我謀
と聽用と庶と
く大悔無人天
方と艱難曰と
厥國と喪と譬
と取と遠と不
昊天不忒不其德
と回通と民

覆用為虐借曰未知亦聿既耄
昊天孔昭我生靡樂視爾夢夢我恣
慘慘誨爾導導聽我藐藐匪用為教
於乎小子告爾舊止聽用我謀庶無
大悔天方艱難曰喪厥國取譬不遠
昊天不忒回通其德俾民大棘
の舊格式と告と必と大と後悔無と我
謀とと聽用とる

國歩茂資天我
 將靡不止疑
 且何往君子
 子實維心
 秉競無誰
 厲階生今
 至梗

憂心慙慙念
 我士宇不天
 生辰逢西
 自東徂定處

瘠瘠所靡多我
 棘我圍

謀為必為
 序爵誰能執
 能執不其
 載胥及溺

○國歩茂資天
 頻困窮之

不我將靡所止疑云徂何往君子實

維秉心無競誰生厲階至今為梗

止疑何往安堵
 上何往安堵
 厲階生今

○憂心慙慙念

我士宇我生不辰逢天憚怒自西徂

東靡所定處多我觀瘠孔棘我圍

の土宇と治めんと暴逆とを急ぐ心の憂へ
 まゝん愚々我の世に生て幾何辰る
 ず天の憚怒と逢ふ西より東に徂る
 で人々定處休息所なく年月多し我瘠

為謀為必亂況斯削告爾憂恤誨爾

序爵誰能執執不其濯其何能淑

載胥及溺

恤と告て賢者智者必も水は手濯む
 依て爵を執る必も水は手濯む
 國と治る必も賢者を用ふ淑と道理

○如彼遼風亦孔之

彼風之遼亦孔之

民有肅心并云不逮好是稼穡力

民代食稼穡維寶代食維好

世之農民の業をかて稼穡の實をり

士官の誠は稼穡の世の實なり

○天降喪亂滅我立王降

此蟲賊稼穡卒痒哀恫中國具贅卒

荒靡有旅力以念穹蒼

天降喪亂滅我立王降

此蟲賊稼穡卒痒哀恫中國具贅卒

荒靡有旅力以念穹蒼

○維

此惠君民人所瞻秉心宣猶考慎其

相維彼不順自獨俾臧自有肺腸俾

民卒狂

又不明

○

旅力有以穹蒼

維此惠君民人

の瞻所心也秉

て宣猶其相

と考慎と維彼

臧俾自有肺腸

狂俾

維此聖人膽言
百里維彼愚人
覆狂以て喜ぶ
言能ふ匪胡
斯畏忌さて

姓々の鹿乃群
 同く君の事なる
 朋友なる
 身の昏以の語
 執とわん是故
 天下の治り
 古人の言
 身の進退も
 咎るる上
 明君なる
 下は忠臣の
 世乃中

維此聖人瞻言百里維彼愚人覆狂
以喜匪言不能胡斯畏忌

言と百里と及皆遠と思慮しつせめよの
心なり愚の人の愛て禍災の至日とし
も狂とて喜意しる人の道理言
のづくと能ざるより只諛者よ畏忌

維○此良人弗求弗迪ス維彼

忍心是顧是復民之貪亂盜為焚壘毋

才徳なき良人にも、進取ある彼
悪事なむ心へ忍ぶ者と

顧念こんねん多おほく復ふたんん万ばん民みん已いと得えど
 物ものと貪くろり行いと乱らんて茶ち毒どくらるるらるる

致（イ）と
○大風有隧有突（三）天谷維此良

人作為式穀維彼不順征以中垢

谷空の道つて良人の作爲の風を吹出

皆この穀を以て又彼道理を不煩
この征に城の中より出たり

大風有隧。貪人敗類。聽言則對。誦言則對。

經典餘師

詩經卷之七

...

言醉匪用其良覆俾我悖

嗟爾朋友予豈不知而作如

民之極罔極職競

之回通職競

民之未戾職盜為寇

雲漢八章

經史余帛

如醉匪用其良覆俾我悖

○嗟爾朋友予豈不知而作如

彼飛蟲時亦獲既之陰女反予來

○民之罔極職競

涼善昏為民不利如云不克民之回

通職競用力

民之未戾職盜為寇

善言雖曰匪予既作兩歌

雲漢八章

經史余帛

三十一

倬彼雲漢昭回于天。王曰於乎何辜。今日於乎何人。天降喪亂。饑饉薦臻。靡神不舉。靡斯牲。主璧既卒。寧莫我聽。寧寧我聽。早既大甚。隆蟲々々。裡。

倬彼雲漢昭回于天。王曰於乎何辜。今日之人天降喪亂饑饉薦臻靡神不舉靡愛斯牲主璧既卒寧莫我聽。○早既大甚。寧々々々。裡。

祀と珍不郊。但宮上下奠。瘞神。宗不。后稷克不上帝。臨不下土。耗。數と寧と我。躬。

藎隆蟲々不珍裡祀自郊但宮上下。莫瘞靡神不宗后稷不克上帝不臨。耗數下土寧于我躬。○早既大甚。寧々々々。裡。

早既大甚。則。業々雲の如く。雷の如く。周餘。

大甚則不可推兢兢業業如霆如雷。○早既。宣王の仁徳と似る。唐の。

の黎民子遺有
靡昊天上帝
胡相畏不先
祖于推人

早既大甚則
沮可不赫々
無大命近正
靡顧靡羣先
正則我助
不父母先祖
寧予忍

周餘黎民靡有子遺昊天上帝則不
我遺胡不相畏先祖于推早殊は烈く
少も推まぶ

其競々業々雷電の落墮とすうり
も危うのうらなうとて世困窮と曆て生
餘一周の黎民も今の子孫も遺す昊天
の上帝も我一族も遺さず先祖も子

早既大甚則不可沮赫推人うん胡
畏さうう

赫炎炎云我無所大命近正靡瞻靡顧

羣公先正則不我助父母先祖胡寧

忍予早沮はく雲の光も赫々炎々如く
我と始て遁隱所も民の大命
も滅滅近うの羣公もいふ君と助徳ら

先正等の神明も我と守護助
いことばやなう先祖の神明も胡寧予
の憂苦と見

早既大甚滌滌山川
早既為虐如焚我心憚暑憂心

如重羣公先正則不我聞昊天上帝

寧俾我遯天下の山川も草木枯立すの
水も滌々う旱魃の靈

神との暴虐と為火と附て焚く異や
民とわん暑と憚る憂さうん心と重
祈と聞入るは昊天の上帝も寧

○早既大甚罪勉

畏去胡寧瘼我以旱愆不知其故祈

早既大甚
罪勉去を畏胡
寧我瘼を瘼
旱を以て替
て其故と知不

早既大甚罪勉

年と祈孔と風
方社莫と不
昊天上帝則不
我と虞不明神
と敬恭と宜く
悔怒と無一

早既大甚
散と友紀無
鞠と哉庶正
夜馬師氏膳夫
趣左右人周不靡
能昊天と瞻印
と云如何と

昊天と瞻印と
嘒々其星有
大夫君子昭假
爾の成と棄と
無何と我為と
とと求ん以て
庶正と昊天
と瞻印と曷
と惠して其寧と

崧高八章

經典餘師

年孔夙方社不莫昊天上帝則不我

虞敬恭明神宜無悔怒

○早既大

其散無友紀鞠哉庶正夜哉冢宰趣

馬師氏膳夫左右靡人不周無不能

止瞻印昊天云如何里

天有嘒々其星天大夫君子昭假無贏大

命近止無棄爾成何求為我以戾庶

正瞻印昊天曷惠其寧

崧高八章

政事乱て民の心とむけ

崧高八章

崧高八章

崧高八章

崧高八章

崧高八章

崧高八章

崧高八章

崧高八章

崧高八章

崧高八章

三

經典餘而

申伯之功。名伯是。管有。叙其城。殷廟。

王申伯と道路
車乗馬我
居と圖南土
介如莫
介圭と錫以
甬の寶作往
也(通)王の舅南
土是保

申伯番ハハハハ
既ハハ謝ハハ于ハハ入ハハ徒ハハ
御ハハ彈ハハ
邦ハハ咸ハハ
良ハハ翰ハハ有ハハ顯ハハ
下ハハ申ハハ伯ハハ王ハハ
元ハハ舅ハハ文ハハ武ハハ是ハハ憲ハハ

その先祖の廟を先建城と法
として玉又その行は臨て車輿の装飾を賜
り四の轡驛は金鷹の
王遣申伯

介圭以作爾寶ス往イ近キ王ヲ舅ヲ南土是保

申伯謝の邑を封賜して行は臨の車に乗るの
馬ととて人路と象手とてを
縣の居るを圖上南方は示如とありて實は
てよとして介圭とたすむ往近南土を保障と
なり王舅と王の海に
母とのおちとあり
○申伯信邁王賤

于郿申伯逖南謝于誠歸王命召伯

徹申伯土疆以峙其糗式遄其行

の邊に歸る所は、饑送なり。其の
 南に歸く還路なり。疆と土田の疆なり。且
 宿々、命にて張糧と峙とるゝなり。○
 なく、遑々行くことなり。やむなり。○
 申

伯番番既入于謝徒御囁囁周邦咸

喜戎有良翰不顯由伯王之元舅文

武是憲
申伯武備番々と好の領地へ入る
徒歩御者いづれも隊位譚々々

邦人周く之と見て欣喜あり我々もん
の爲は良翰なるの振うり申伯の功不
ぶまや文武の道の憲もるべき人なり
と元の大なるより義をてたすしてん
○

申伯之德柔惠且直此萬邦聞于
言甫誦其風肆好以申伯
詩孔碩其風

烝民八章

天生烝民有物有則民之秉彜好是
與天有周
于假茲天子

保仲山甫

仲山甫之德柔嘉維則令色小心翼翼
式威儀是
明命是賦使

王仲山甫命是百辟式是王躬是保王

經典餘師

申伯之德柔惠且直揉此萬邦聞于
四國言甫作誦其詩孔碩其風肆好
以贈申伯
四方之國之聞
詩碩其風
贈

烝民八章

宣王盛德世與之
焚乃侯仲山甫之命一城

天生烝民有物有則民之秉彜好是
懿德天監有周昭假于下保茲天子

生仲山甫

天生烝民之民之降生
物名

仲山甫之德柔嘉維則令色小心翼翼
式威儀是方天子是若明命使賦
仲山甫之德柔
仲山甫之德柔

嘉維則令儀令色小心翼翼古訓是
式威儀是方天子是若明命使賦

王命仲山甫式是百辟
王命仲山甫式是百辟

詩經卷之六

命之出納王
之侯舌政于外
之賦四方爰發

肅々々王命
仲山甫之將
否仲山甫之
明哲以既明
且哲以其身
保其身夙夜
匪以一人
人亦言有柔
則之之若剛

維仲山甫柔亦
吐不矜寡不
畏不疆禦

人亦言有德
輔之如民
我之儀圖
維仲山甫之
舉愛之之
助之莫衷職
關之有維仲
山甫之補

續我祖考王躬是保出納王命王之
唯舌賦政于外四方爰發

肅肅王命仲山甫將之
邦國若否仲山甫明之既明且哲以
保其身夙夜匪解以事一人
○人亦有言柔
則之之若剛
維仲山甫柔亦
吐不矜寡不
畏不疆禦
人亦言有德
輔之如民
我之儀圖
維仲山甫之
舉愛之之
助之莫衷職
關之有維仲
山甫之補

則茹之剛則吐之維仲山甫柔亦不
茹剛亦不吐不侮矜寡不畏疆禦

人亦有言德輔如毛民鮮克舉之我
儀圖之維仲山甫舉之愛莫助之衣
職有關維仲山甫補之

四牡騤々々々
八鸞咩々々々
仲山甫齊々
歸人吉甫誦

仲山甫出祖四牡業業征夫捷捷每
懷靡及四牡彭彭八鸞鏘鏘王命仲
山甫城彼東方仲山甫のふい王命は依
て彼東方齊の地と城と
築築んと今出行は就て祖道餞送の其行
裝装の業々々々といひ捷々々征行人夫のすや
詳詳く○四牡騤騤八鸞喈

嗒仲山甫徂齊式邁其歸吉甫作誦

彭々も行ふ人なり 仲山南へ日も猪
うくてもなる人なり 齊祖も遠く歸べ
吉甫詩と作誦の人乃徳穆民と化
清風の万物と清る人 仲山甫も永
朝廷の懐ちる人 今詩と
作てつゝ慰る人なり

韓國侯初て世と繼嗣て來朝し諸侯との命と賜て

奕奕梁山維禹甸之有倬其道韓侯
受命王親命之續我祖考無廢朕命
夙夜匪解虔共爾位朕命不易韜不

卷之二十一

佐と更共
庭の方と餘
以て我の辟と

四牡奕奕孔脩且張
韓侯入覲
其介主
王韓侯
錯衡玄衮赤舄
鉤膺鏤錫鞞韉
淺懷偉革金危

韓侯出祖
屠于宿顯父之
壺其散維何
魚鼈鮮魚其藪
維何維荀及
蒲其贈維何
乘馬路車邊豆
且其有侯氏
燕胥

庭方以佐戎辟

禹王民乃為水と防土地と餉て傳ふ大功
勞りて地を其道りて法とるん
命と易廢とる風夜解匪の職を續け爾の位と

四牡奕奕孔脩且張韓侯人覲以其

介圭入覲于王王錫韓侯淑旂綏章

簞第錯衡玄衮赤舄鉤膺鏤錫鞞韉

淺懷偉革金危

天子の觀に奉るその
印の玉よりして王の錫の格式器物の淑色

の旂舟車の綏章車の簞第錯衡の魚鼈
龍画の玄衮赤舄金乃鉤膺鏤錫鞞韉
の鞞韉の革の車の軛の鞞韉の革の車
の金環と金危と

宿于屠顯父饒之清酒百壺其散維

何魚鼈鮮魚其藪維何維荀及蒲其

贈維何乘馬路車邊豆有且侯氏燕

胥

韓侯都と出歸の屠の公卿顯父とい

の贈物に乘の馬路の車の外に食物と盛
運豆且其の邦國侯氏會合して胥

韓侯妻之取汾王之甥蹇父之彭里于百兩彭鏑其光諸婦之從之祁韓侯之顧其門盈蹇父孔武靡國蹇姑為一

酒宴をり ○韓侯取妻汾王之甥蹇父之子。韓侯迎止于蹇之里。百兩彭鏑。八鸞鏑鏑不顯其光。諸婦從之祁祁如雲。韓侯顧之爛其盈門。韓侯顧其門盈 名の家より公卿蹇父の子を妻取し居めし厲王の甥なり。威光不顯は八鸞の鈴鏑より雲の如く諸の婦車馬百兩の鏑鏑の鈴鏑より同姓乃國として三國より九人との嫁姓より勝女として

攸と相韓の樂如莫樂韓の土川澤許々蹇南々蹇有羅有猫有虎有慶既令居韓姑燕譽と溥彼韓城燕師の完き所先祖命と受時百蠻因と錫て王韓侯其追其貊奄

如韓樂孔樂韓土川澤許許勛蹇南甫鹿鹿嘯嘯有熊有羆有猫有虎慶既令居韓姑燕譽周の公卿蹇父の孔武備と達せし人なり 前王の使者より諸國不到所なり。韓姑が為し嫁と攸と相韓の土の孔と樂と如く許々川澤等とて甫々より蹇の勛蹇より鹿鹿嘯嘯と燕譽をり。溥彼韓城燕師所完以先祖受命因時百蠻王錫韓侯其追其貊奄受北國因以其伯實墉實壑

受因て以て其國
伯り實一墻
實一壑言ふ
實一籍其貌皮
と獻る赤豹黃
罷

江漢六章

江漢浮々々々
武夫滔滔
安匪遊
淮夷來求
我車既出
我旗既設
匪淮夷
舒

來鋪

江漢湯々々々武
夫洗々々々四方
經營已成
告四方既平
王國庶
時
靡王の心載
寧

江漢之許王召
虎命式
四方
土と徹
匪棘
匪王國
來極

實畝實籍獻其貌皮赤豹黃罷

の師衆の命を傳へる城を韓の國に宛てて築
の二國の鎮を築くは韓の王命に背く地
因近づくは鎮を築くは韓の王命に背く地
の伯り實一墻と實一壑と實一籍と實一貌皮と
籍を定めて政事を執行するは天子獻上の品
罷の皮赤と豹黄と

江漢六章

宣王時々の世に周の
衰を恢復又召公の命に
成て淮夷を平治し美なる功なる

江漢浮々武夫滔滔匪安匪遊淮夷
來求既出我車既設我旗匪安匪舒

淮夷來鋪

召公舟手の武備のの江
漢の浮々水は流るるの
武夫既安匪遊
て便地を求く輕と出旗と設く
鋪の南營隊伍を

江漢湯湯武夫
洗洗經營四方告成于王四方既平

王國庶定時靡有爭王心載寧

江漢
武夫洗々四方を經營爲て軍功成就する
海の外までも平けし王國も定て大平
王の心も争ふ事なく
之詩王命召虎式辟四方徹我疆土

匪棘匪王國來極于疆于理于

王命虎
來旬來宣
文武命受召
公維翰小子
曰無召公
是似戎の公と
肇敏也バ用て
錫爾
爾主璜和
一貞と璜文人

于吉山土田を
錫周于て命
と受召祖の命
は自づ虎拜
稽首も天子萬
年

虎拜稽首
王休と對揚
召公の考と作
天子萬壽明々
天子令聞
己不其文德と
矢此四國と洽

南海

江漢の諸より次第に土地と四方

王命虎

來旬來宣文武受命召公維翰曰

予小子

召公是似肇敏戎公用錫爾

社

王命と受江漢のりて來て可く
王德と宣しる昔文王武王天命と受
て汝の先祖召公執政務と執て周の翰
德い不如とくもとの任責予小子汝召公相
敏肇廣に再は社福といふ我が職
釐爾主璜和曾一貞告于文人錫山

釐爾主璜和曾一貞告于文人錫山

土田于周受命召祖命虎拜稽首

天子萬年

此詩の諸侯九命の釐賜と
けての先祖と祭し又山と

天子萬年

土地と加増し功を思賞り
我專に功を思賞り大祖文王の廟に告奉

天子萬年

受召祖の命は自づ虎拜
稽首も天子萬年

天子萬年

釐賜の璜以下
前は出づるを

天子萬年

虎拜稽首對揚王

天子萬年

休作召公考天子萬壽明明天子令

天子萬年

聞不已矢其文德洽此四國

天子萬年

祖康公の廟所に於て王命の休美と神明の祭り罷

常武六章

赫々明明々々
王卿士之命
南仲太祖大師
皇父我六師
整之既以我戎
修之既以我戎
國之惠也

詩云銘之作又天子之祝曰成王
の壽福やせめ明々々々聖徳令聞
不巳文徳と失ふて天下
四方の國は治るる

常武六章

宣王の武威大々々々
宣王の武威大々々々
宣王の武威大々々々

皇父之命師衆と整ふる
皇父之命師衆と整ふる
皇父之命師衆と整ふる

赫赫明明王命卿士南仲太祖大師

皇父整我六師以修我戎既敬既戒

惠此南國

王尹氏之謂
程伯休父之命

陳我師旅之戒
徐土之省

王又卿士皇父之命
大祖南仲之文王の時大功
六軍の師衆と整
と平治の大師と皇父の兼官と三公の
一物とれん戒め敬とて仁とて南方大平
の惠なり

左右陳行戒我師旅率彼淮浦省此

徐土不留不虞三事就緒

程の邑は伯休父の命
の職とて左右二行と陳我師旅の法
令と戒め淮の浦と率と徐方乃土と省
て民と示して曰く我軍は惡逆を征
のふたり長く留り農作
三品乃事とけり緒業と就緒

赫赫業々有嚴天子
嚴天子有王舒
 保作匪紹徐方
匪紹徐方
 震驚徐方
震驚徐方
 方震驚

王厥武奮
王厥武奮
 厥虎臣
厥虎臣
 如淮
如淮
 敦執截
敦執截

赫赫業々有嚴天子
赫赫業々有嚴天子

子王舒保作匪紹匪遊徐方
子王舒保作匪紹匪遊徐方

驚徐方如雷如霆徐方震驚
驚徐方如雷如霆徐方震驚

徐方乃國人
徐方乃國人

王奮厥武如
王奮厥武如

震如怒進厥虎臣
震如怒進厥虎臣

潰仍執醜虜截彼淮浦王師之所
潰仍執醜虜截彼淮浦王師之所

威奮天地
威奮天地

彼淮浦王師之所
彼淮浦王師之所

王旅嘽嘽如飛如翰如江如漢如山
王旅嘽嘽如飛如翰如江如漢如山

之苞如川之流縣縣翼翼不測不克
之苞如川之流縣縣翼翼不測不克

濯征徐國
濯征徐國

濯征徐國
濯征徐國

王猶允塞徐方既來
王猶允塞徐方既來

徐方既同天子之功四方既平徐方
徐方既同天子之功四方既平徐方

來庭徐方不回王曰還歸
來庭徐方不回王曰還歸

變王外
變王外

徐方來庭
徐方回不王曰
還歸

瞻卬七章

昊天
則我
不孔
降
靡
屆
畀
不
靡

似も内は猶尤を以て塞ふがけり徐方
感化して一同に來服を依て四方安穩なる
徐方の國人たるは服して朝廷に入觀
り永く王命に回不るん朝に還るん

瞻卬七章

似の時幽王惡逆長く褒
の時幽王惡逆長く褒
の國

瞻卬昊天則不我惠孔填不寧降此
大厲邦靡有定士民其瘵蟲賊蟲疾
靡有夷屆罪罟不收靡有夷瘳
度大よもて頼る只昊天と瞻卬し
ぐらなりちんども天道もかよ及らん
我と惠あべ天下填く寧とらん是は厲
邦定らん民心を瘵よる凶年

人土
有之
有女
此宜
及之
宜之
覆之
哲夫
婦城
哲夫
婦城
哲夫
婦城

匪時
維婦
寺
匪時
維婦
寺
匪時
維婦
寺

人有土田女反有之人
有民人女覆奪之此宜無罪女反收
之彼宜有罪女覆說之
土田民百姓の覆て之と奪らんて吾有
罪無との收く之と獄よる有罪も
の依怙をかりて説らん

哲夫成城
哲婦傾城
哲夫成城
哲婦傾城
哲夫成城
哲婦傾城

長舌維厲之階
亂匪降自天生自婦
人匪教匪誨時維婦寺
誠は陽陰内外
動

人と鞠く伎
貳と始と諧り
竟と背豈曰
極と不とんや伊
胡と隠と為賈
の三倍の如き
君子是と識婦
公事無其蠶
織と休

言部 言部 言部
は伏とて天地の自然なり 野夫の哲ふく
振と用とる能國家と成就一城とく
婦女の今憂似色と以て城と傾け家と破
の婦人長く舌の鳴と不吉の鳥と
る多言とて教誨とる人より生ずる
婦人と寺人より寺人の君の鞠人
尤古より小身の臣下なり
伎貳諧始竟背豈曰不極伊胡為愚
如賈三倍君子是識婦無公事休其
蠶織 婦と寺 伎と貳 始と人 以て人 人と諧 人 竟と
る道と能何事と就 愚と極 所と
るも何事と伊胡と愚と為 中とい

天何と以と刺
何の神と富不
爾の介狄と舎
維予晉忌不祥
と弔と不威儀
類と不人之云
亡邦國珍率
天之罔と降
維其優人
云亡心之憂
美天之罔と降
と維其幾人

言部 言部 言部
公務の事無身とる 蠶織機とる
天何以刺何神不富爾介狄維予
胥忌不弔不祥威儀不類人之云亡
邦國珍率 天何以王と刺 曉とや神明
何故と民と富と 予と謙とを為と 晉忌と
難い舎とて 予と謙とを為と 晉忌と
とや民の不祥と 予と謙とを為と 晉忌と
邦國の珍絶る ○天之降罔維其優矣
率の基とる ○天之降罔維其優矣
人之云亡心之憂矣 天之降罔維其

憂(美)寧今自
 不我後也
 藐々々々昊天
 克鞏不_レ無皇
 祖と忝_レと
 無_レ式て爾の
 後と救ん

國の滅亡しんとせし幾らん誰か心悲しんぞ
 緯の一人の賢者亡く憂ふべし

今矣不自我先不自我後藐藐昊天

深き泉の淵の深き何ぞ我心の憂へ
 深き泉の淵の深き何ぞ我心の憂へ

皇祖の徳を尊ぶと世に治るるを克く固く後

同を救ふべし

幽王世を夷狄の難に
饑

是シ 敵ト 是シ の 題ト あり 依ツキ て 卒ソツ の 詞コトバ あり
字ジ と 取トル う こと あり 相アヒ 分ワケ たり たり たり

流亡我居圉卒荒
天威疾
萬降
國將
喪

弘く饑饉填く民百姓流亡く我居城
 國の圍やても卒く荒野にんたり

天降罪罟ツ蠹賊コ內訌ニ昏拯フ靡共キ瀆瀆ニ

回遯實靖夷我邦

の心利欲を昏蔽して共利と靡して民を誑して

回通の人の世を漬ぐはくさくさといふんの時な
う實は我邦を靖く夷けん事をせしむる○

經典餘師

詩經卷之七

四十一

國之憂こころと百
里ちとせ於お乎や哀かない哉
維い今け之の人ひと尚なほ舊ふる
有あ不ふや

ふ今けの時とき々々土地ちとせ憂かないぬ哀かない哉や舊ふるの徳とくと尚なほ
すむるがゆへなり國くにと治ちるよ古人こじんよりより次
己おのれが智ちをを用もちふい愚おろそ迷まよ
の君きみよりよりとと

詩經卷之七終

